

成績概要書 (2011年1月作成)

研究課題：やまのいも新品種候補「十勝3号」(723301、400340)

担当部署：十勝農業試験場 研究部 地域技術グループ、十勝農業協同組合連合会、
帯広市川西農業協同組合、音更町農業協同組合

制度区分：受託(民間)、一般共同

研究期間：2003～2010年(平成15～22年)

1. 特性一覧

系統名	十勝3号	交配組合せ		No.11(いちょういも)×音更選抜(ながいも)			
特性	長所 1. ヤマノイモえそモザイク病に強い。 2. 粘度が高い。 3. 短根である。			短所 1. 不定芽の形成に時間がかかる。			
普及見込み面積	20 ha						
試験年次	平成20～22年						
調査地	十勝農試(芽室町)			帯広市		音更町	
品種・系統名	十勝3号	音更選抜 (標準品種)	川西選抜 (比較品種)	十勝3号	音更選抜 (標準品種)	十勝3号	音更選抜 (標準品種)
形質							
萌芽期(月/日)	6/17	6/17	6/17	6/13	6/9	6/20	6/17
黄変期(月/日)	10/13	10/14	10/14	10/20	10/18	10/16	10/18
不定芽の形成	中	良	良				
草勢	やや強	強	強				
分枝性	やや少	中	中				
むかご着生	やや多	多	多				
雌雄性	雄株	雄株	雄株				
いも形状	紡錘	長紡錘	長紡錘				
貯蔵性	中	中	中				
規格内収量(kg/10a)	4,290	4,063	4,033	4,460	4,473	4,364	5,228
同比	106	(100)	99	100	(100)	83	(100)
規格内率(%)	92.3	92.7	86.8	98.7	93.8	95.4	88.0
多数本いも株率(%)	1.0	19.8	19.2	1.3	18.5	1.7	34.6
全長(cm)	47	58	57	53	68	46	66
調製長(cm)	32	39	38	35	46	32	47
いも径(cm)	8.8	6.2	6.6	9.6	6.5	9.7	6.0
平均1本重(g)	974	873	935	1,002	1,010	895	1,032
乾物率(%)	21.5	16.5	16.7	20.5	15.3	20.6	14.3
粘度(Pa/s)	5.4	3.5	3.6	6.0	3.3	5.5	3.2
ヤマノイモえそモザイク病抵抗性	強	中	中				

注1) 十勝農試データは、平成20～22年の生産力検定試験(標植)の3カ年の平均値。

注2) 帯広市データは、平成20、22年の平均値。

注3) 表中の特性検定試験は十勝農試のみで実施。

2. 特記すべき特徴

「十勝3号」は、ヤマノイモえそモザイク病抵抗性がながいもより強く、短根で、粘度が高く内部品質に優れている。

3. 優良品種に採用しようとする理由

北海道のやまのいもの栽培はその大部分がながいもであり、作付け面積は1,960ha（平成21年）で、収穫量は全国の35%を占め、青森県とともに全国で1、2を競う生産地域である。貯蔵技術の確立や輸送方法の改良から周年出荷が可能となり、国内はもとより海外への輸出も積極的に行われている。生産量については、栽培技術の改良から飛躍的な単収の増加につながったが、本州産のいちょういもやつくねいもに比べ、ねばりが少ないため、用途が限られることから、ねばりの強い品種の開発が求められてきた。さらに栽培面ではながいもはヤマノイモえそモザイク病にかかりやすいため、採種圃場ではアブラムシ防除とウイルス罹病株の抜き取り作業が生産者には大きな負担となっている。

「十勝3号」はヤマノイモえそモザイク病に対する抵抗性が強いため、ウイルス罹病株の抜き取り作業が軽減され、生産コストの低減に有効である。また、いちょういもとながいもの交配によって作出された「十勝3号」の収量性は、ながいもと同等かやや劣るものの、短根であり、ながいもと明らかに異なる形状と内部品質であることから、やまのいもの新たな地域ブランドの品目として期待される。

4. 普及見込み地帯

十勝及びこれに準ずる地域

5. 保有種苗量

種いも 75kg、むかご 20.9kg

6. 普及見込み面積

20ha

7. 栽培上の注意

- 1) ながいもに比べ不定芽の形成がやや劣るため、1週間程度長い催芽期間を要し、催芽時の腐敗の発生を防止するために適切な管理に努める。



「十勝3号」のいも形状

(左:「音更選抜」、中央:「十勝3号」、右:「川西選抜」)



ヤマノイモえそモザイク病の発生の違い

(左:「十勝3号」、右:「音更選抜」)